

笑顔の力

東京都 大森第六中学校 1年 後藤 健介

兄の交換留学で、イギリス人が夏休みの3週間、我が家に来ることになりました。正直、僕としては恒例の家族旅行は中止になり、部屋の大掃除など受け入れ準備にも追われ、これからのことを考えると面倒なことばかりが頭に浮かんで、ゆううつでしかたありませんでした。

僕はまだ英語の勉強を始めたばかりで、言葉がよくわかりません。外国人と親しく長く話したこともないので、最初に成田空港で会ったときには、頭の中が真っ白になり、何度も練習していた短いあいさつもどこかに飛んでいってしまいました。だから、ただただ「にこやかに笑っている」ことしかできませんでした。

成田空港から自宅に向かう車の中でも、初めて味わう緊張感で、助手席に座った僕はミラー越しに、後ろに座ったオーロラという名前のイギリス人女子高校生を観察していました。

「ワオッ」と言いながらディズニーランドの写真をスマホで撮ったり、高速道路からの景色を撮ったりと、とても興奮しているように見えました。

ところが、夕食のときには少し元気がなくなっていました。時差が8時間あり、非常に辛いということだったので、疲れが原因かなと思っていたのですが、翌朝も、車の中で見た「にこやかな表情」はありませんでした。それがホームシックだったと、後で本人から聞きました。

それから数日たった彼女は、「日本はとても楽しい」と言って、元気な笑顔に戻っていました。日本食や盆栽といった伝統文化、渋谷や原宿といった若者文化、東京タワーやスカイツリーなどの景観に感動していたのはもちろん、レストランや美容室のサービスの細やかさや、お土産の小物にまで感激していました。

長くて面倒だと思っていた3週間は、意外とあっというまに過ぎ、最後に家族でお別れ会を開き、彼女から私たち家族一人ひとりにメッセージがありました。

僕へのメッセージ、感謝の言葉はとても簡単なものでした。

「私のホームシックをなおしたのは、あなたの笑顔です。」

親切って何だろうと考えました。相手のことを一生懸命考えて、思いやって手を差し伸べることだとは思いますが、普段意識しないことやできる範囲でやれることもたくさんあるのではないのでしょうか。

僕はまだ上手に外国人と英語で会話することはできません。けれど、オーロラからもらったメッセージで勇気がわいてきました。会話はできなくても、いつも笑顔でいようと心がけた僕の気持ちが彼女に伝わったからです。話す言葉が違って、表情だけで心が通じ合うこともあるんだとわかったからです。

成田空港での見送りのときに、彼女は号泣していました。僕も生まれて初めて、人との別れで涙が出ました。

ドキドキと恥ずかしさと笑顔、ほんの小さな積み重ねが友好関係の原点です。親切のハードルは高くない、とわかった経験でした。この夏の出会いにより、オリンピックで応援する国が一つ増えました。